



2019年3月期 第2四半期
決算説明会

2018年10月26日

株式会社トーマンデバイス

本資料に掲載されている株式会社トーメンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確定の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

I

第2四半期 決算概況

II

2018年度 見通し及び取り組み

連結業績サマリー



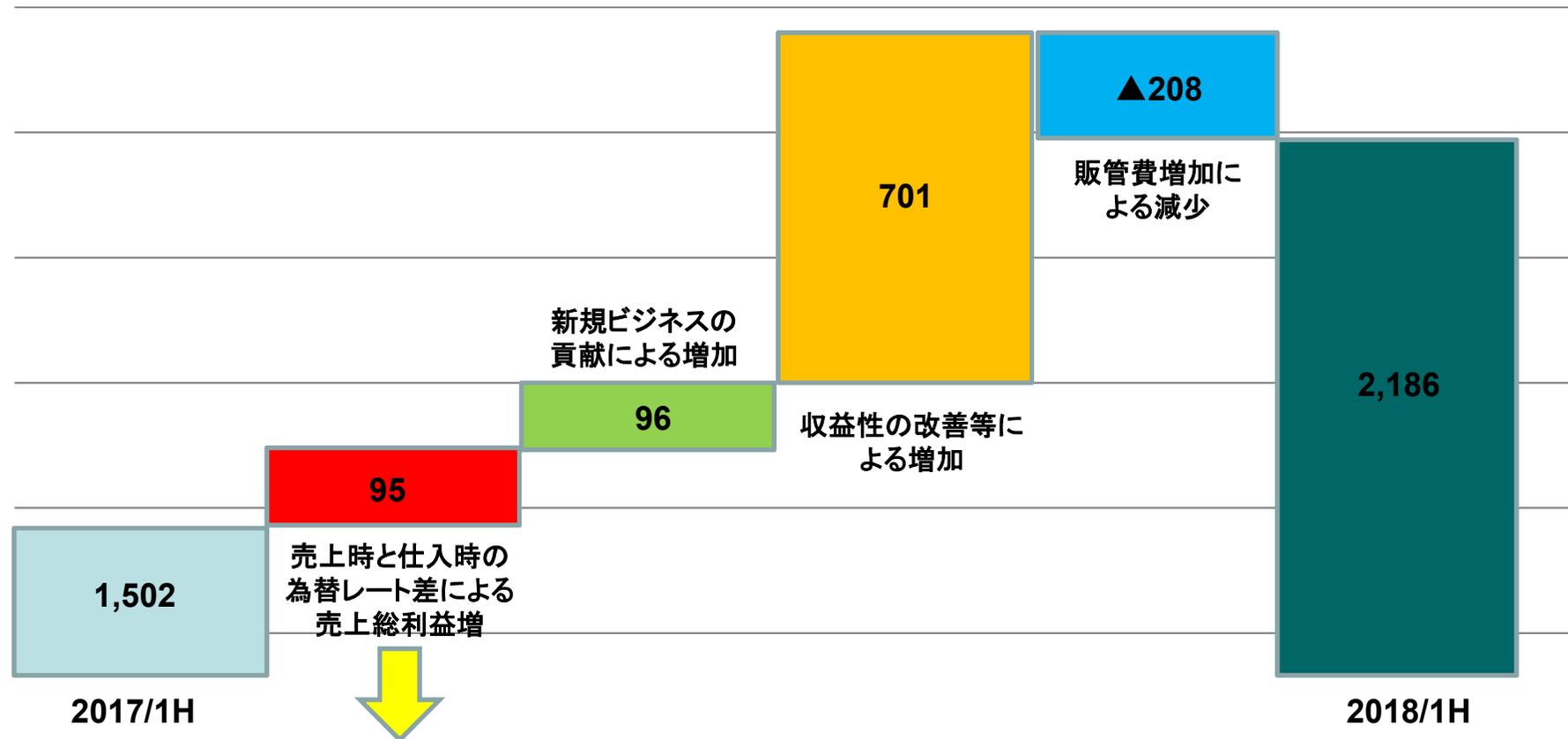
(単位:百万円)

	2017年度 1H	2018年度 1H	増減額	増減比
売上高	104,886	99,493	▲5,392	▲5.1%
売上総利益	2,521	3,414	+892	+35.4%
営業利益	1,502	2,186	+683	+45.5%
経常利益	1,307	1,647	+339	+25.9%
当期純利益	933	1,133	+200	+21.5%
総資産	74,979	85,000	—	—
純資産	27,109	28,633	—	—
1株当たり純資産(円)	3,968.31	4,187.26	—	—
自己資本比率	36.0%	33.5%	—	—

※ 当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益増減要因

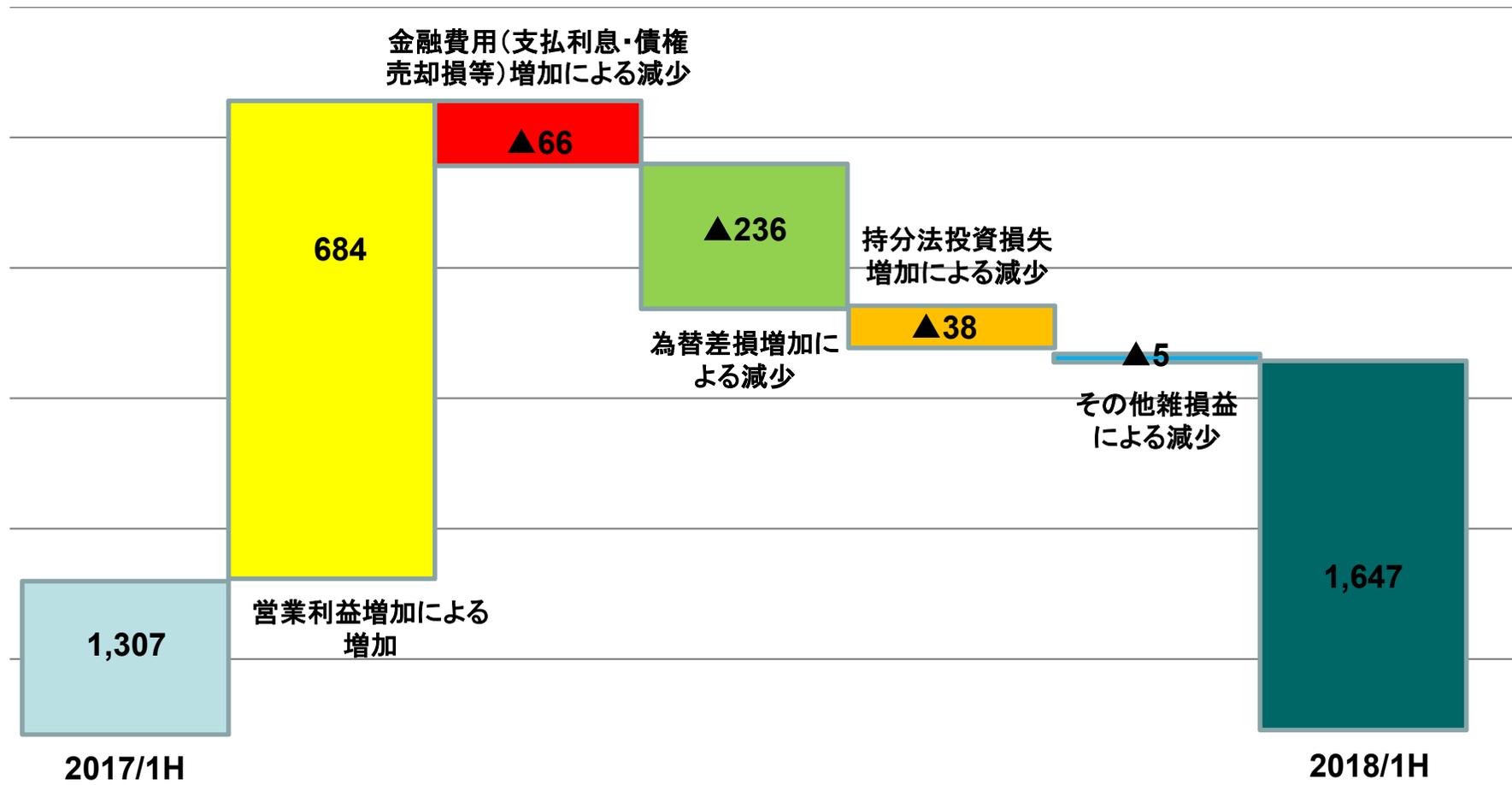
(単位:百万円)



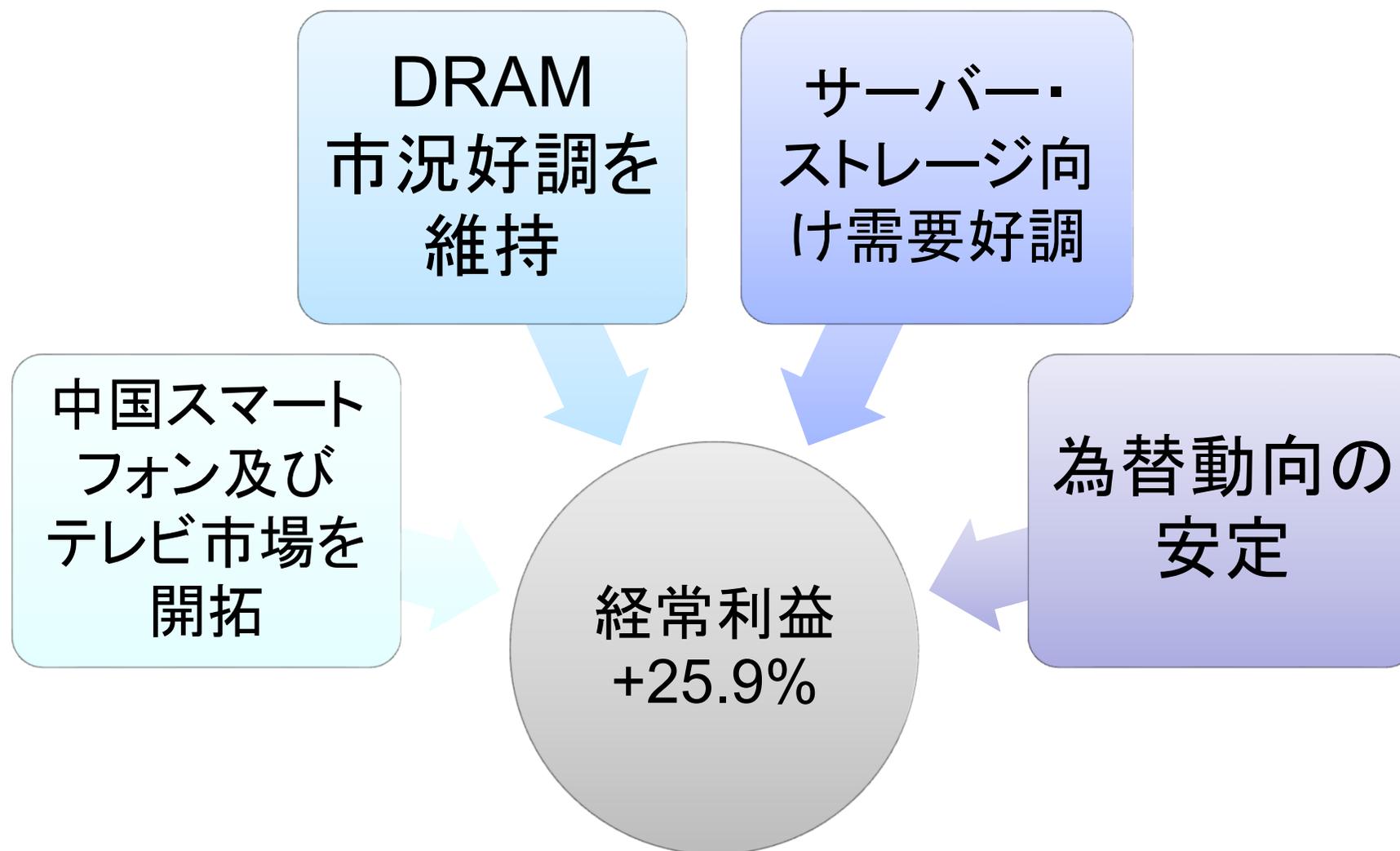
為替予約により為替相場の変動リスクのヘッジを行っているため、営業外収益の為替差益にて見合いの利益が発生することにより、
経常利益においては、概ね、契約時点で見込んだ利益額を計上。

経常利益増減要因

(単位:百万円)



売上高は減収ながらも利益は確保

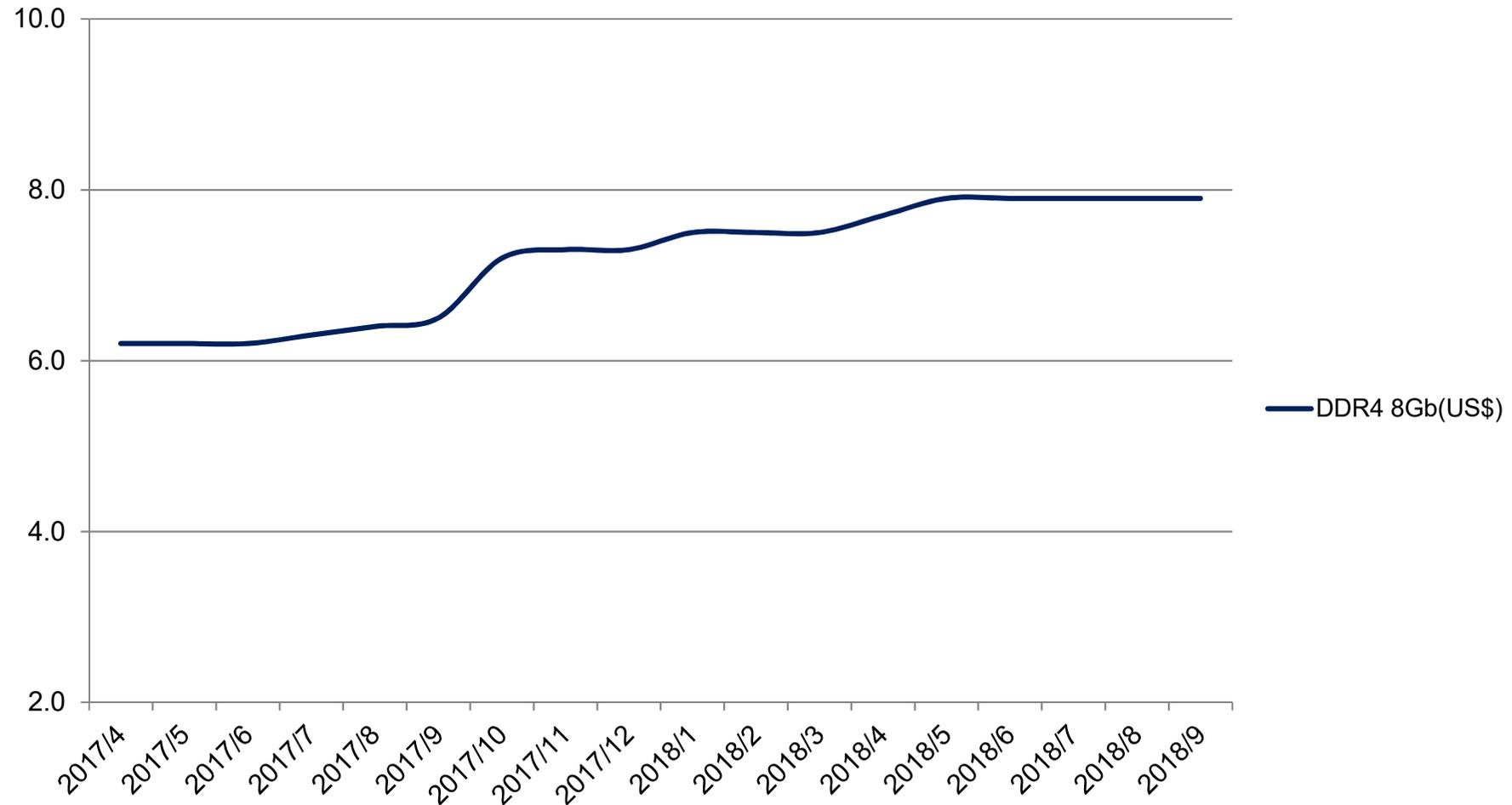


DRAM価格推移('17年4月~'18年9月)



DRAM市況は好調を維持

(単位:USドル)



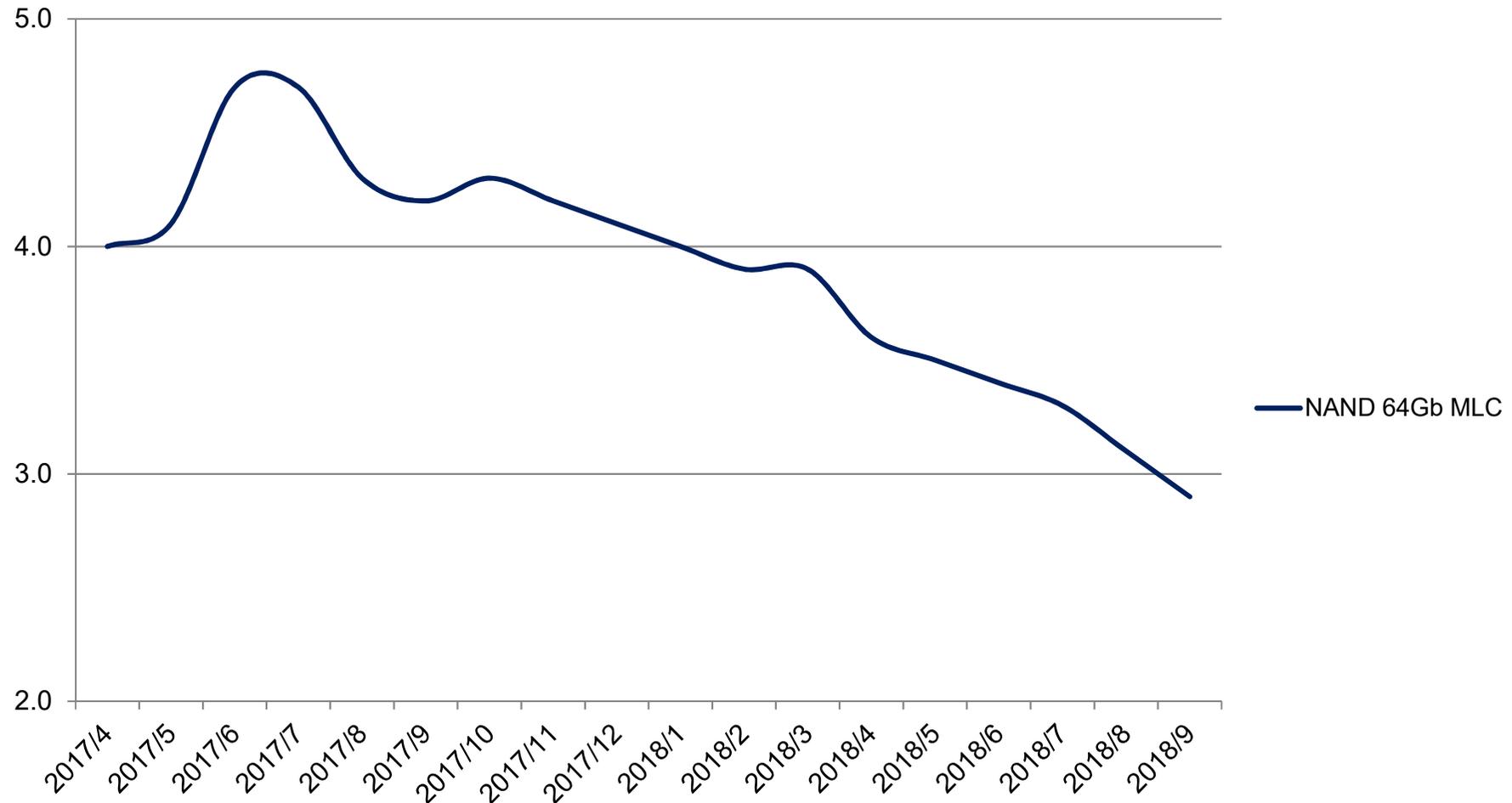
(出所)各種資料をもとに当社で作成

NAND価格推移（'17年4月～'18年9月）



供給過剰が続き、下落傾向

(単位:USドル)



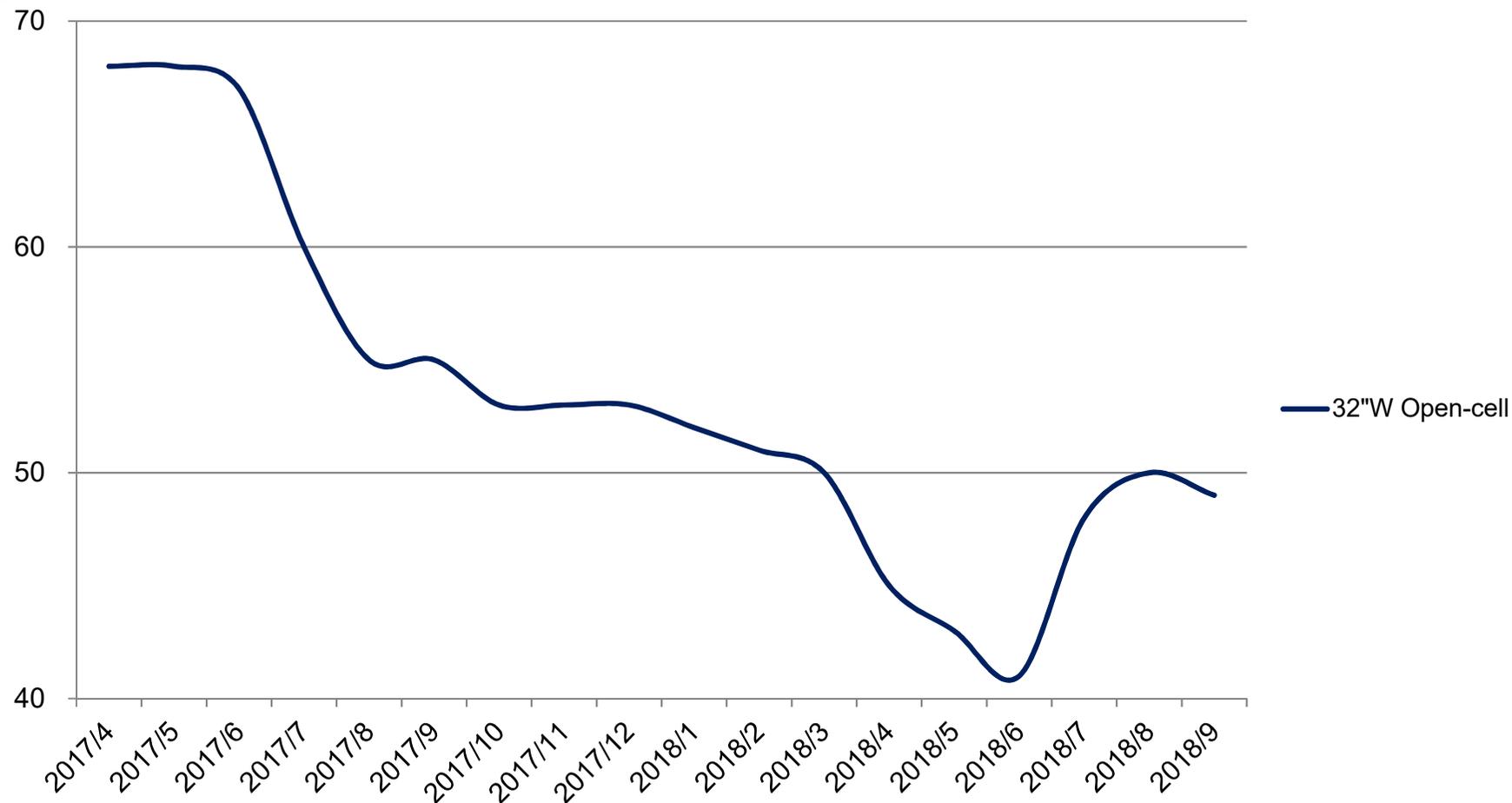
(出所)各種資料をもとに当社で作成

液晶パネル価格推移（'17年4月～'18年9月）



需要の弱さにより、価格下落傾向に

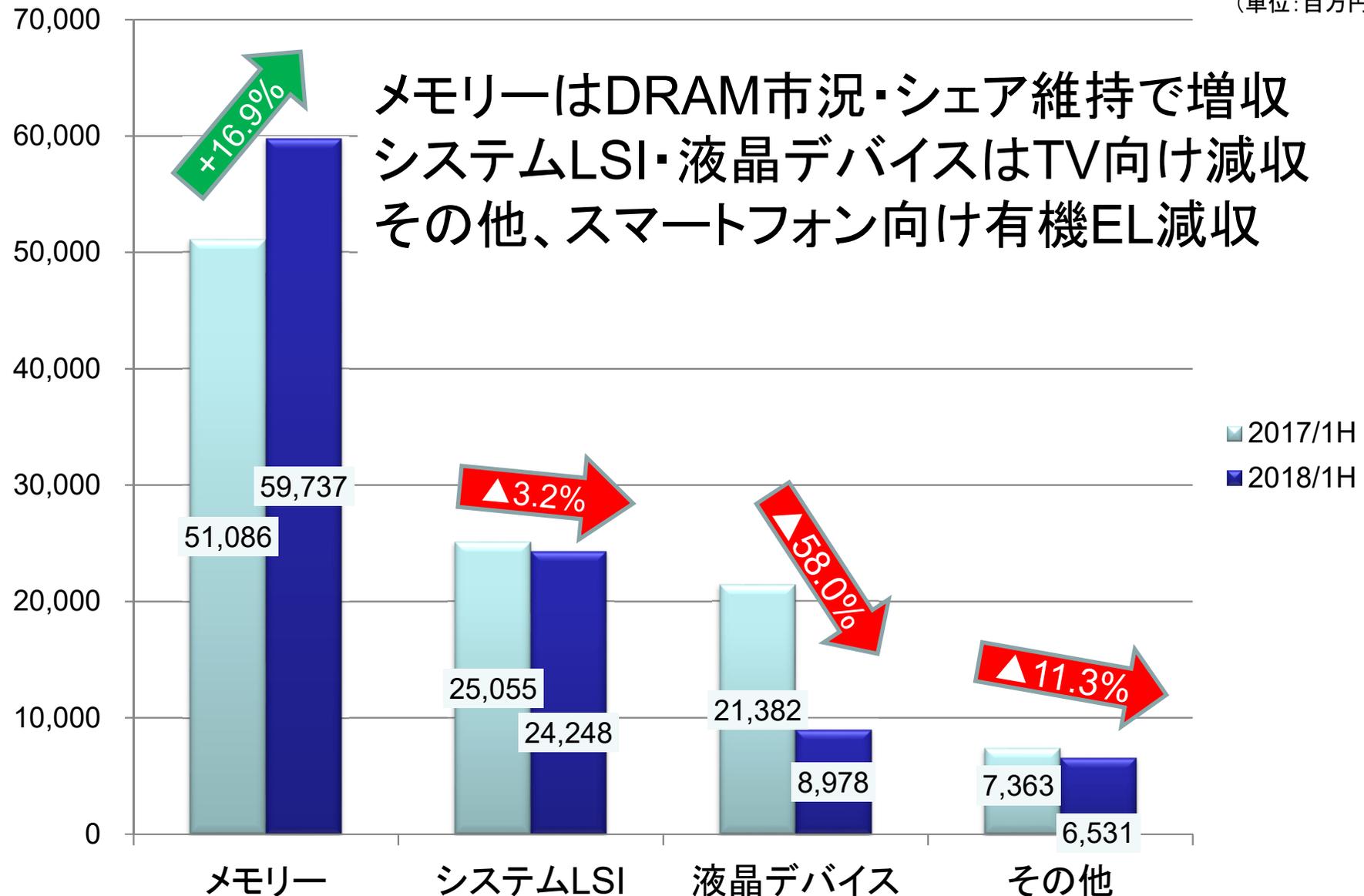
(単位:USドル)



(出所)各種資料をもとに当社で作成

商品別 売上高推移

(単位:百万円)



商品別売上高増減要因



メモリ **+16.9%**

- DRAM市況・シェア維持で増収
- 中国市場NAND Wafer BIZ復調

システムLSI **▲3.2%**

- 中国スマートフォン向けCIS増収継続
- テレビ、タブレット向けドライバーIC減収

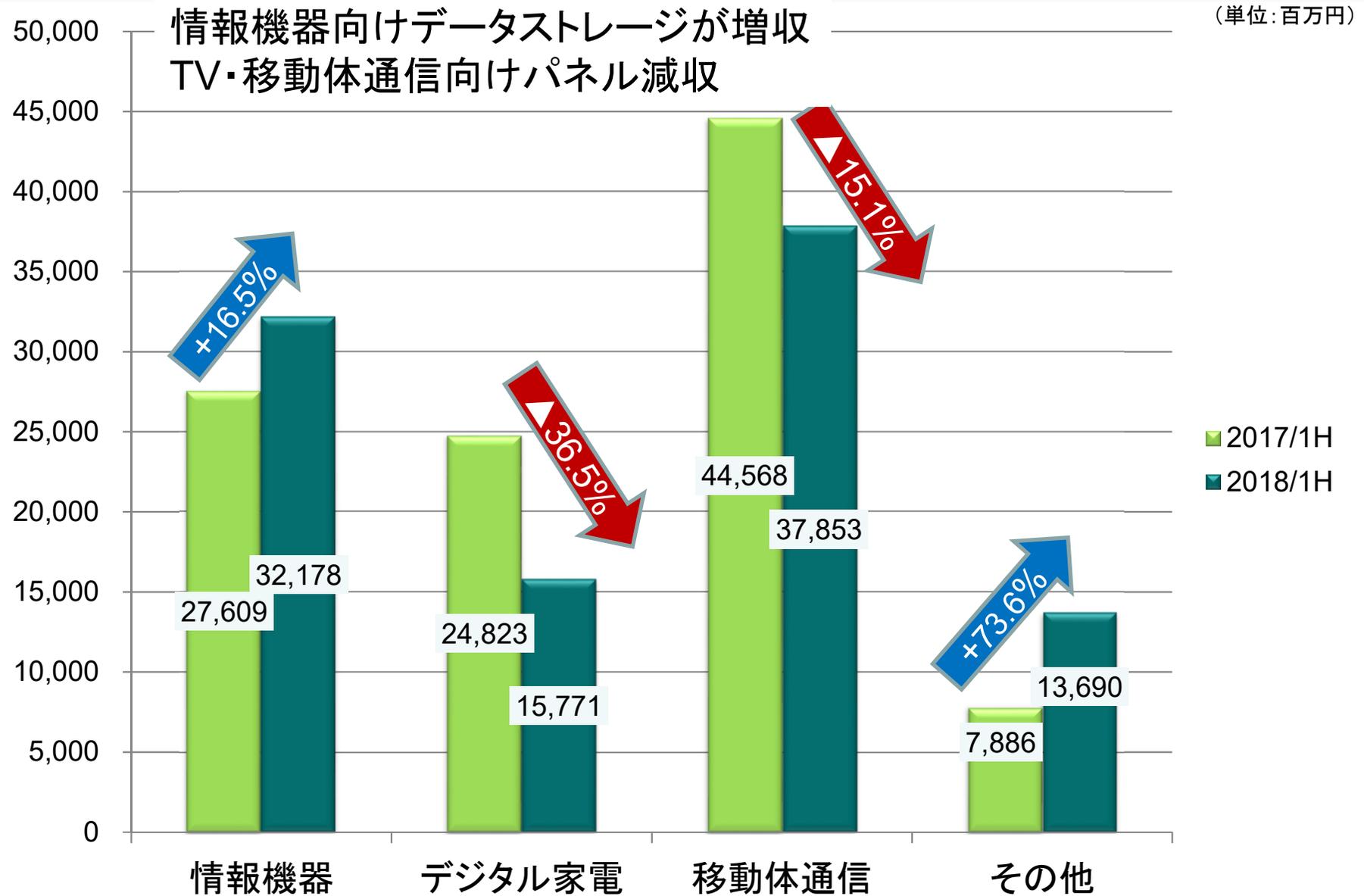
液晶デバイス **▲58.0%**

- テレビ向け価格・市況下落による減収
- モニター向け 減収

その他 **▲11.3%**

- スマートフォン向け有機EL減収
- 設備装置で増収

用途別 売上高推移



用途別売上高増減要因

情報機器 **+16.5%**

- ・ サーバー・ストレージ向けビジネス好調
- ・ 中国でDRAM、国内でSSDなどNAND製品の拡販を実施

デジタル家電 ▲36.5%

- ・ 中国・日本共にテレビ向け液晶パネルの販売が減少

移動体通信 ▲15.1%

- ・ 中国CMOSイメージセンサビジネスは維持
- ・ 国内有機ELが減収

その他 **+73.6%**

- ・ 中国でのNAND Wafer BIZ(USB・SDカードなど)復調

本日の内容



I

第2四半期 決算概況

II

2018年度 見通し及び取り組み

2018年度業績予想



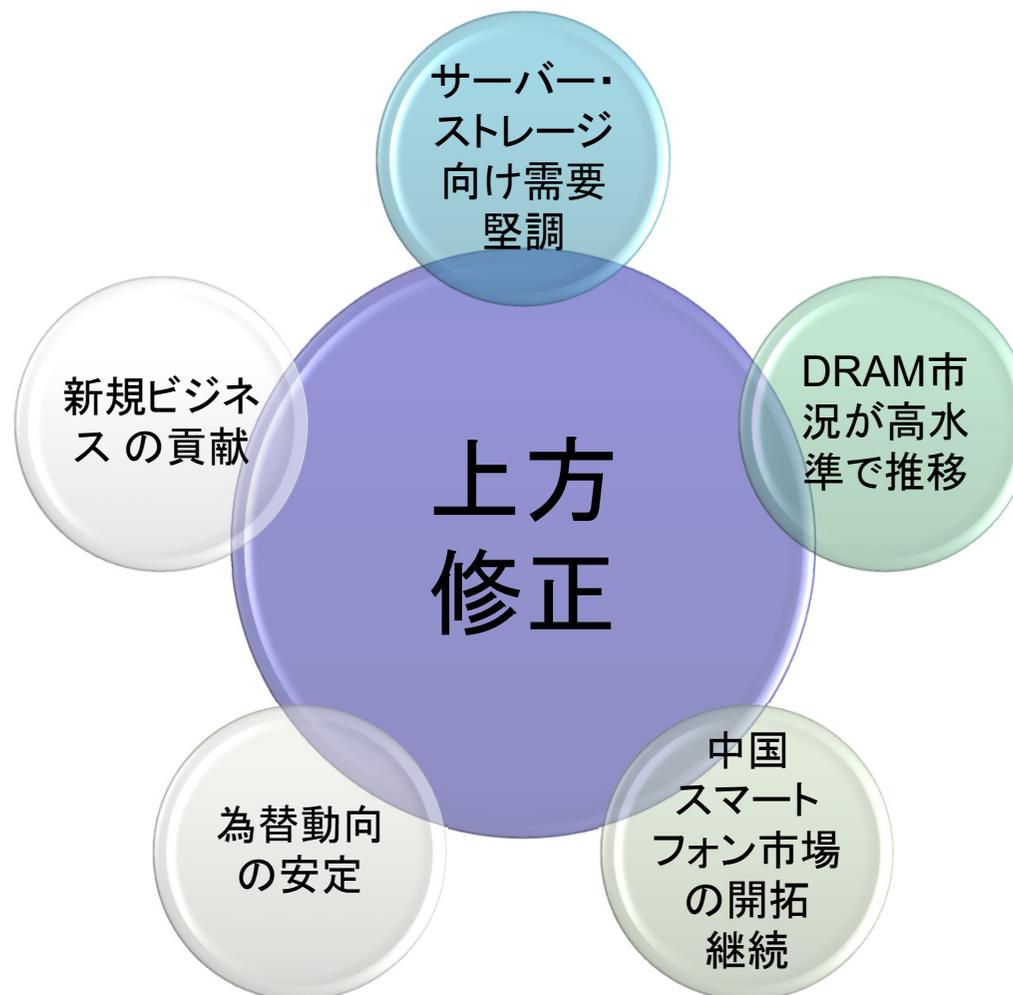
過去最高の売上高を見込む

(単位:百万円)

	17年度実績	当初予想	修正予想	対前期増減	前期比
売上高	197,569	205,000	215,000	+17,431	+8.8%
営業利益	2,598	2,620	3,400	+802	+30.9%
経常利益	2,428	2,470	2,600	+172	+7.1%
当期純利益	1,741	1,760	2,000	+259	+14.9%
1株当たり 当期純利益(円)	256.03	258.77	294.06	—	—
R O E	6.4%	6.4%	7.2%	—	—
1株当たり 配当金(円)	80	80	90	+10	+12.5%
配当性向	31.2%	30.9%	30.6%	—	—

※ 当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益

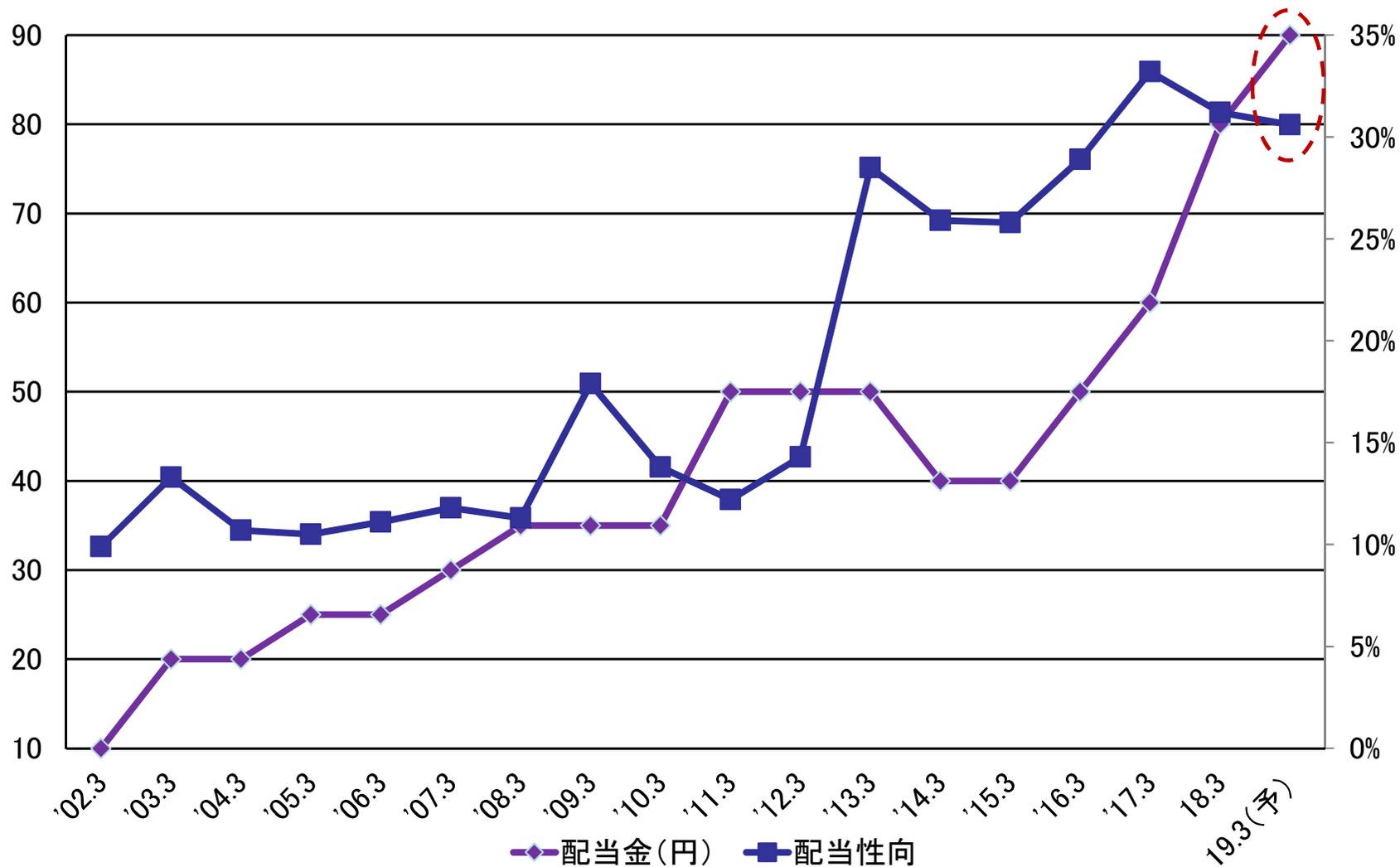
下期は環境が厳しくなる見込みだが、
通期では過去最高の売上高となる見通し



増配

過去最高の配当額。4期連続で(対前年度比)増配を実施。

(単位:円)



2018年度下期の見通し

Positive

- ・ サーバー、ストレージ、データセンター向けメモリー需要は今後も拡大
- ・ 自動車の電動化・電子化進む
- ・ インド市場への参入
(ATMDシンガポール 稼働開始)

Negative

- ・ 国内政局及び地政学リスクの影響
- ・ LCD市況の変動
- ・ CPU供給問題によるPC需要硬化
- ・ メモリー市況悪化

事業譲受案件ビジネスの拡大

- 新規譲受顧客へのシェア拡大と未参入商材の拡販

新規市場の開拓

- サーバー・ストレージ向けにSSDなどNAND製品の供給を拡大
- 車載市場の開拓を継続
- 設備・装置向けビジネスの順次稼働と拡大

下期の商品別重点取り組み事項

メモリー

- 中国・国内→サーバー・ストレージ向け中心に、SSDなどNAND製品のプロモーションを継続
- インド市場(DC、スマートフォン)の開拓の継続

システムLSI

- CMOSイメージセンサ等、中国スマートフォン市場の拡販続行
- 事業譲渡案件の維持・拡大
- SOC製品プロモーション

液晶デバイス

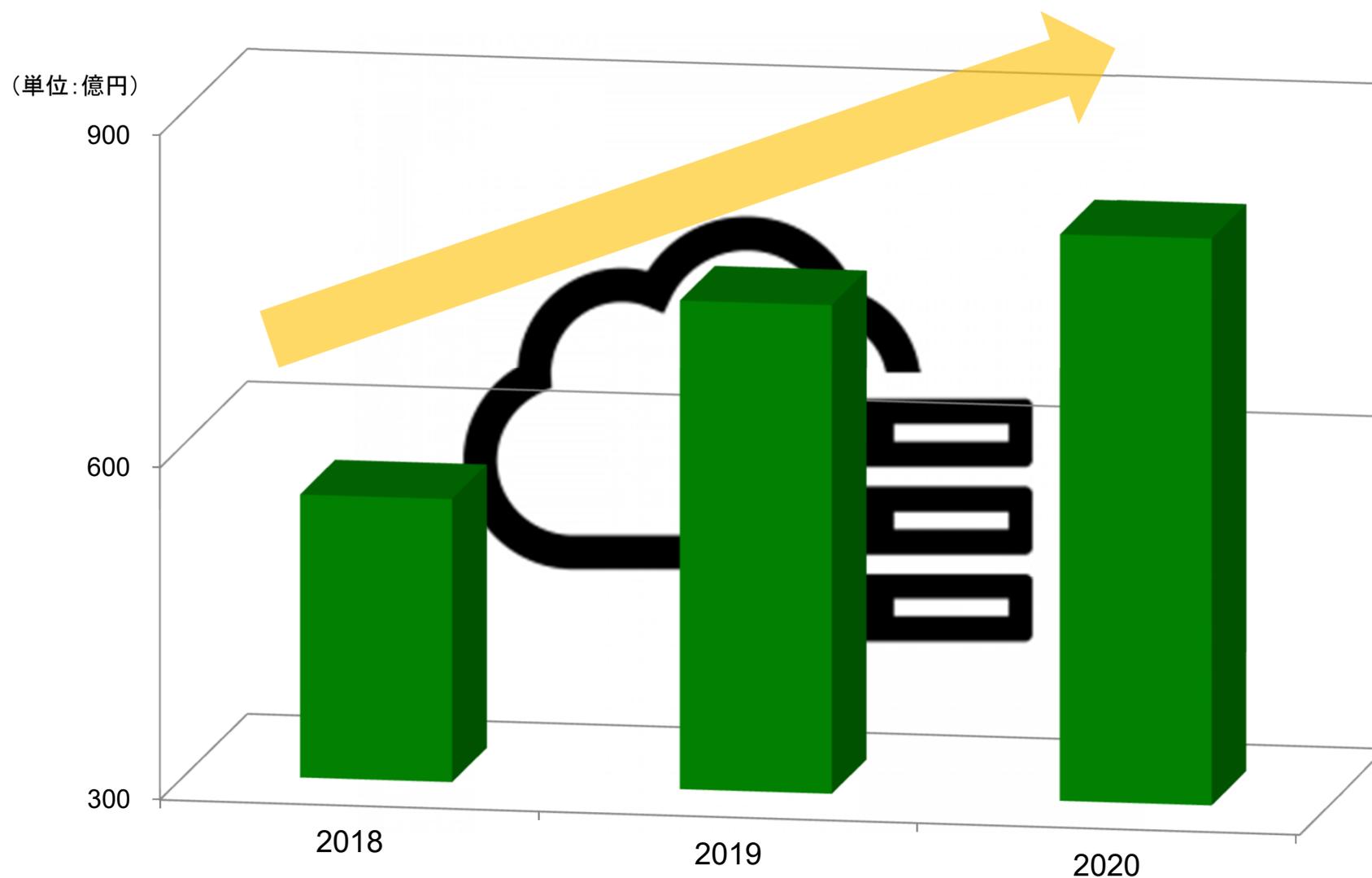
- 中国テレビ市場で拡販活動継続
- スクリーンビジネスの模索

その他

- 設備等、新規ビジネス・商材の開拓
- 有機ELパネルの顧客・アプリ拡大

サーバー、ストレージ向け売上計画

競争力の高いメモリー（DRAM、SSD）を武器に売上を伸ばす

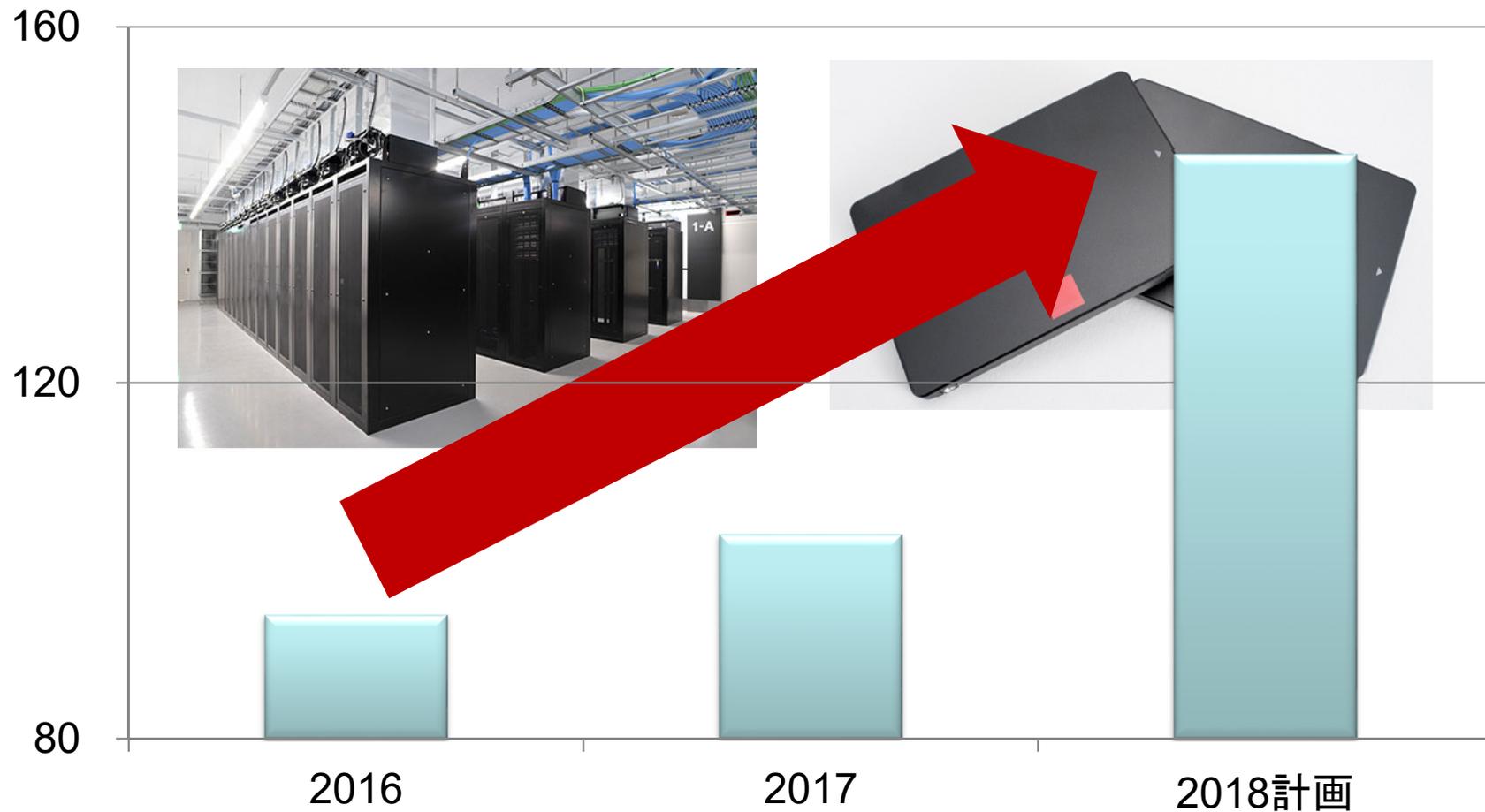


当社フラッシュストレージビジネス計画



サーバー・ストレージ、データセンター
向け中心にNAND FLASH、SSDを拡販

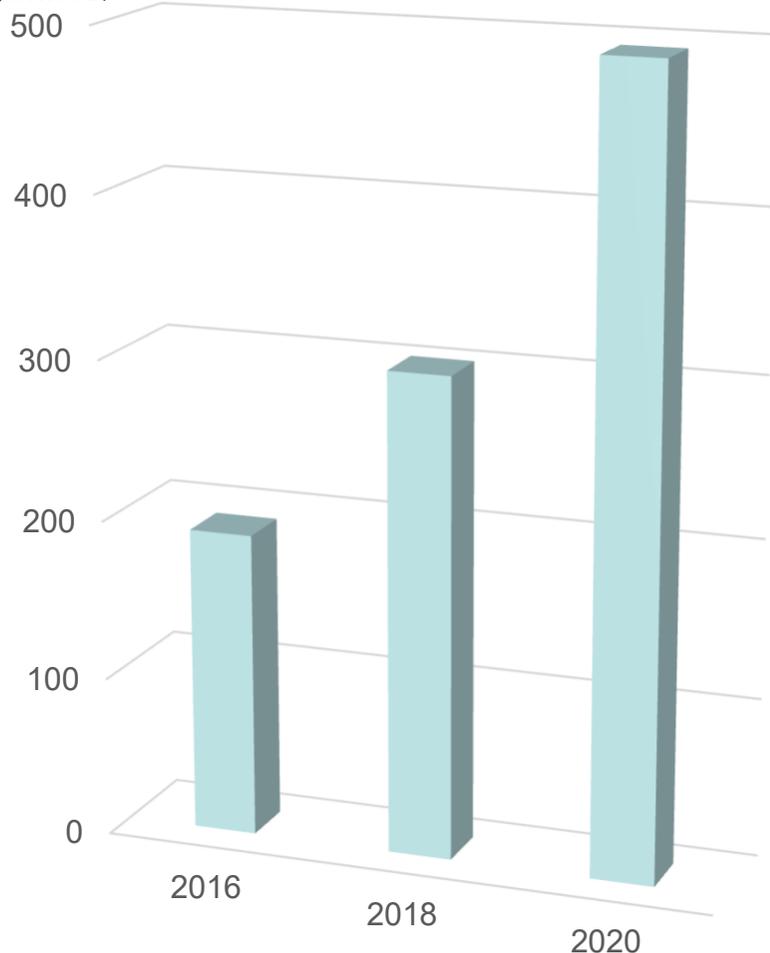
(単位: 億円)



デジタル革命に乗り、業績拡大を目指す

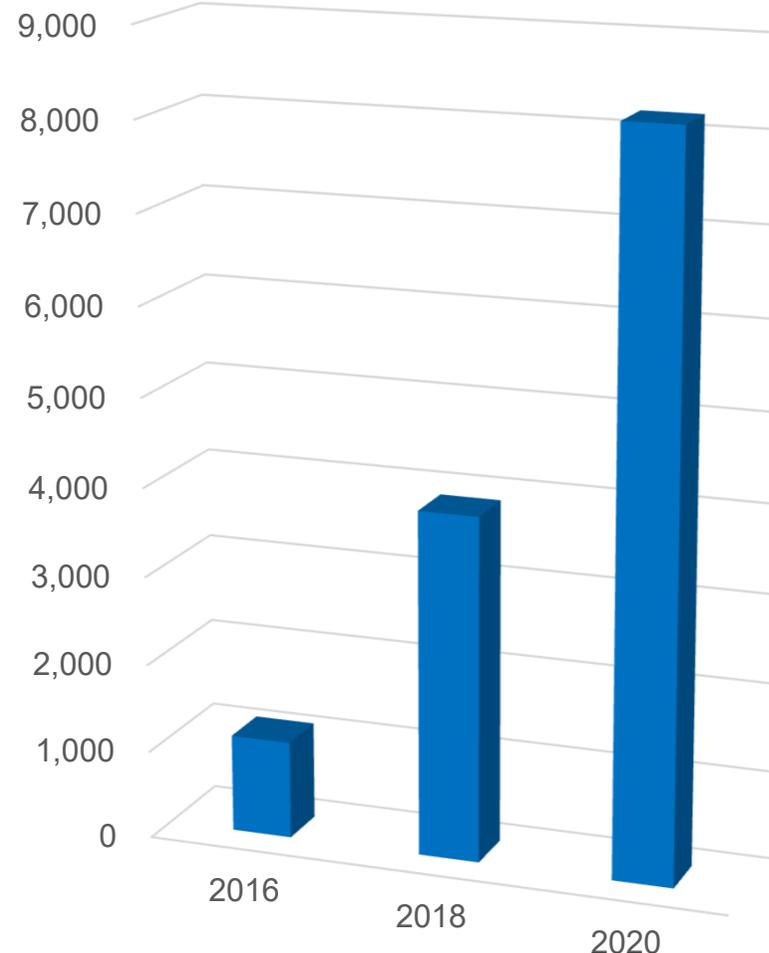
Forecast for Server DIMM

(単位: MGb)



Forecast for Server SSD

(単位: PB)



(出所)各種資料をもとに当社で作成

車載ビジネスの取り組み状況



メモリ以外の商材を提案、種まき中

LED

車体内外双方の
照明向けに
LEDを提案

車載カメラへの提案

CMOSイメージセンサ

車載関係

有機EL

フロントパネル、
電子ミラーへの提案

サンプル出荷済み
採用の機会を伺う

バッテリー

ご清聴ありがとうございました

